

題：アナログであることの意義

名前：

情報伝達の媒体としてインターネットと新聞や雑誌などのいわゆる紙面メディアを比較するとき、大きく異なる点としてインターネット上のニュースはPCを扱える環境にさえあればどこからでも望む情報も比較的簡単に入手できのことにに対し、新聞や雑誌などは欲しい情報が記載された現物を持つ歩いていなければいっことも参照することは難しく、また検索機能も欠くというところが真矢に挙げられる。この手の議論においては往々にしてこのようなアナログのモビリティの欠如が指摘されることが少なくない。

なるほど本や雑誌を単に情報そのものとして見るならば、この先技術の進歩が進んで今よりさらにPC使用可能環境が遍在化したときには全てデジタル化された情報を搭載したPCが、完全に本や雑誌に代りて居ることはあるまい。インターネット上の文章に對する批判として挙げられる匿名性ゆえの情報の不確実性などは、電子書籍などの形式で

著者が明確にされた場合には問題にならないうし、そもそもデジタルであることに伴う直接的な問題ではない。

しかし本や雑誌をその内容と同一視して考えるのではなく、情報伝達の手段として考えたとき、ふと考へようとするのは本や雑誌は実物が3次元的に存在しているがゆえに自分の手で情報に書き込みや切り抜きなどの加工が可能であり、それが情報の吸収(学習)の過程に好影響をもたらすのではないかと、ということである。

ただ、いずれにせよ技術の進歩は書き込みや切り抜きなどの「手動的な」「アナログ的な」作業を何らかの形でコンピュータに組み込むことも可能にするかも知れない。先程のPC使用環境遍在化の仮定にしても、この先紙面メディアがコンピュータ(インターネット)に代りてかわらぬことがどうも体予断を許さぬところがある。しかし仮にそうなることを、当面先のことにするのだらう。

1800字